

小学校道徳教科書におけるSDGs教材の特徴

星 裕*

概 要

本研究の目的は、小学校道徳科の教科書におけるSDGs教材の特徴を検討し、体系的にSDGs教育を進める上で、道徳科の果たす役割について基礎的資料を得ることであった。

本研究の結果、SDGs教材の特徴として、以下の4点が示された。1点目は、出版社によってSDGs教材の取り扱い数に加え、その取り扱い方も異なったことである。2点目は、SDGs教材は高学年になるにつれて多く配当されたことである。一方、SDGs教材は、低学年から配当されており、低学年の段階からSDGs教育を行うことが可能である。3点目は、SDGs教材として取り扱いの多い内容項目は、自然や生命、自国の文化や他国との関わりに関する内容項目であったことである。4点目は、SDGs教材において多く取り扱われたSDGsの目標は、内容項目との関連が明確であったことである。

これら4点の特徴から、SDGs教育を進める上で道徳科の果たす役割として、発達段階に応じてSDGs教育を体系的に進める要となることが示唆された。

I 問題の所在と研究目的

2018年、1958年に特設された道徳の時間が約60年を経て、小学校で「特別の教科 道徳」となった。教科化に伴う改善の方向性の中では、道徳の授業において主たる教材として教科用図書（以下、「教科書」と記す）を用いることが示された（道徳教育の充実に関する懇談会、2013）。また、教科書の導入に当たっては、民間発行者の創意工夫を生かすとともに、バランスのとれた多様な教科書を認めるという基本的な観点から、検定を経た教科書を採択して用いる方法がとられた（中央教育審議会、2014）。

ところで、現行（2017年告示）の学習指導要領では、前文では児童が持続可能な社会の創り手となることを求められ、総則では、その創り手としての資質・能力の育成を育むための教育活動の充実の対象に道徳科も含まれている（文部科学省、2017a）。そして、この持続可能な社会を創るための目標として、近年SDGsが注目され始めている。

例えば、持続可能な社会を創るための目標として、2015年9月の国連サミットでは、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、「持続可能な開発目標（SDGs）」が掲げられた（国際連合広報センター、2015）。このSDGsは、2016年から2030年までの国際的な目標であり、持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットから構成されている。このうち、ターゲット4.7には、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能の習得に向けて取り組むことが示されている。

*北海道釧路町立昆布森小学校 教諭（北海道教育大学教職大学院 2016年3月修了生）

これを受け、日本においても、2020年12月にSDGs推進本部は、持続可能な開発のための教育（ESD）を推進し、次世代へのSDGsの浸透を図るため、持続可能な開発のための教育を行う必要性を示した（SDGs推進本部、2020）。また、中央教育審議会（2021）も同様に、2015年に設定した持続可能な開発目標（SDGs）などを踏まえた持続可能な社会づくりにつなげていく力を育む力が求められていることに言及している。

そして、持続可能な社会の創り手となるため資質・能力と道德教育の関係に関して、中山（2018）は「グローバル時代の道德教育とは、多文化共生の実現と地球環境問題の解決に向けて、民族や国家の枠を乗り越えて共に生きていこうとする、持続可能な社会の担い手としての価値観形成を行う教育活動である。すなわち、持続可能な発展のための教育（ESD）につながっていく道德教育を意味している」（pp.29-30）とし、道德教育が、持続可能な社会の創り手を育成する教育につながっていく必要性を指摘している。また、小嶋（2017）は「道德教育は教育の根幹である。道德性と無縁の教育などありえない。だからこそ、日本中にユネスコスクールを広め、2014年に向けてさまざまな取り組みを展開してきた日本のESDの実践の蓄積を、『特別な教科 道德』の実践にどのように生かすことができるかが、今後の日本のESDの推進にとっても重要な課題であると思う」（p.70）とし、道德科の授業を通して、持続可能な社会の創り手を育成することを今後の課題として示した。このことに関わって、柳沼（2015）は、「現代的課題をもっと取り入れ充実させる必要がある。例えば、情報モラル、生命倫理、環境保全（持続可能な社会ESD）などの今日的課題の扱いを充実させることである」（p.167）とし、道德科の指導において持続可能な社会に向けた課題に関わる内容の取り扱いを充実させる必要性を示唆した。

一方、道德の授業に関して、教材が果たす役割が大きいこと（赤堀、2018）、道德の授業では各教科と比べて教材に依存する割合が高いこと（田沼、2018）が指摘されていた。そのため、持続可能な社会の創り手としての資質・能力を道德の授業を通して育成していく上で、道德の教科書の果たす役割は大きいと考えられる。

そこで、本研究では、小学校道德の教科書から、「持続可能な開発目標（SDGs）」に関連する教材（以下、「SDGs教材」と記す）を抽出し、SDGs教材の取り扱い数、形式、道德の内容項目との関連、SDGsの17の目標との関連について整理し、その特徴を分析することとした。その結果から、小学校において持続可能な社会の創り手を育み、体系的にSDGs教育を進める上で、道德科の果たす役割について基礎的資料を得ることを目的とした。

Ⅱ 方法

1 対象

本研究で対象とした道德の教科書は、2020年度版小学校道德の教科書であった。2020年度版小学校道德の教科書は8社から発行されており、本研究は、そのうち、「持続可能な社会をつくる力」、「ESD」、「SDGs」等として教材との関連が明記されていた7社の教科書を対象とした¹⁾。SDGs教材としての判定は、各出版社の表記に基づくこととした。「教材別テーマ対応表」、「編集趣意書」、「構成・内容一覧」、「内容解説資料」等、表記を確認できた場所は出版社によって異なったものの、各出版社が「持続可能な社会をつくる力」、「ESD」、「SDGs」等として関連を示した教材を対象とした。なお、年間指導計画に位置付けられた35教材（1年生は34教材）を対象とし、補助教材やコラム等、時数が配当されていない教材は除外した²⁾。本研究では、これらのSDGs教材の取り扱い数、形式、

道徳の内容項目との関連、SDGsの17の目標との関連を検討した。

2 方法

(1) SDGs教材の取り扱い数（分析1）

SDGs教材の取り扱い数を分析した。これによって、SDGs教材の出版社別取り扱い数の特徴と学年別取り扱い数の特徴を明らかにすることができると考えた。

手続きは、出版社別に各学年のSDGs教材取り扱い数を整理し、その結果から出版社別特徴と学年別特徴を検討した。

(2) SDGs教材と形式との関連（分析2）

SDGs教材の形式を分析した。これによって、SDGs教材の形式における全体的特徴、学年別特徴を明らかにすることができると考えた。

手続きは、まず、SDGs教材の形式を同定した。形式は、「①生活文」、「②人物」、「③説明文」、「④絵・写真」、「⑤物語」、「⑥その他」とした。「①生活文」とは、フィクション、ノンフィクションを問わず、児童の生活場面を取り扱った教材とした。児童作文もここに含めた。「②人物」とは、特定の人物を中心とした自伝や伝記などを取り扱った教材とした。「③説明文」とは、何らかの内容について取り扱い、説明を行った教材とした。「④絵・写真」とは、絵や写真のみで構成、もしくは絵や写真を中心として取り扱った教材とした。「⑤物語」は、物語を取り扱った教材とした。それ以外の形式については、「⑥その他」とした。なお、同定作業は、筆者である星が行った。次に、同定した教材数を出版社別に学年ごとに整理した。最後に7社分を合計し、学年ごとにどの形式にいくつの教材が取り扱われたのかを示した。この結果から、SDGs教材の形式における全体的特徴、学年別特徴を検討した。

(3) SDGs教材と道徳の内容項目との関連（分析3）

SDGs教材と道徳の内容項目との関連を分析した。SDGsは多くの内容項目と関連すると考えられるが、各出版社がどの内容項目にいくつのSDGs教材を配当したか分析することで、特にどの内容項目に重点を置いたのかを明らかにすることができると考えた。

手続きは、まず、出版社別に内容項目に配当された教材数を学年別に整理し、次に、抽出された教材数を7社分学年別に合計した。その結果からSDGs教材と道徳の内容項目との関連における全体的特徴と学年別特徴を検討した。

(4) SDGs教材とSDGsの17の目標との関連（分析4）

SDGs教材とSDGsの17の目標との関連を分析した。SDGsの目標として17の目標が示されている（国際連合広報センター、2015）。これらの目標との関連を同定し、各出版社がどの目標にいくつのSDGs教材を配当したか分析することで、特にどの目標に重点を置いたのかを明らかにすることができると考えた。

手続きは、まず、SDGs教材とSDGsの17の目標との関連の同定作業を行った。この同定作業は筆者である星が行った。次に、出版社別に学年別に同定した教材数を目標別に整理した。最後にそれらを7社分合計し、学年別にどの目標にいくつの教材が配当されたのかを示した。この結果から、SDGs教材と17の目標の関連における全体的特徴と学年別特徴を検討した。

Ⅲ 結果

1 SDGs教材の取り扱い数（分析1）

SDGs教材の取り扱い数を整理した結果が表1であった。SDGs教材として7社から132教材が確認できた。

まず、出版社別の結果について確認した。SDGs教材の取り扱い数が多かった出版社は、D社、A社の2社であった。最も多かったD社は配当数が44、学年平均が7.3であった。次に多かったA社は配当数が32、学年平均が5.3であった。一方、配当数が少なかった出版社は、B社であった。B社は配当数が6、学年平均が1.0であった。残りの4社についてはほぼ同数の配当数であった。C社、G社は配当数が12、学年平均が2.0、E社、F社は配当数が13、学年平均が2.2であった。

次に、学年別の結果を確認した。SDGs教材の取り扱い数が最も多かった6年生は配当数が33、平均4.7であった。次に多かった5年生は配当数が30、平均が4.3であった。一方、最も少なかった1年生と2年生は配当数が14、平均2.0であった。また、1年生と2年生、3年生と4年生、5年生と6年生の低学年、中学年、高学年の段階ではほぼ同数の教材が配当されていた。

表1 SDGs教材の取り扱い数

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計	平均
A社	3	4	5	5	8	7	32	5.3
B社	0	0	1	1	2	2	6	1.0
C社	1	2	3	1	2	3	12	2.0
D社	5	4	5	7	11	12	44	7.3
E社	2	1	3	2	3	2	13	2.2
F社	2	2	2	2	2	3	13	2.2
G社	1	1	2	2	2	4	12	2.0
合計	14	14	21	20	30	33	132	22.0
平均	2.0	2.0	3.0	2.9	4.3	4.7	18.9	

2 SDGs教材と形式との関連（分析2）

SDGs教材と形式との関連を整理した結果が表2であった。合計が、SDGs教材の取り扱い数である132より多い145になったのは、複数の形式を含む教材がみられた際に、それぞれの形式として取り扱ったためである。

まず、全体の結果を確認した。教材の形式は、「生活文」、「人物」、「説明文」、「絵・写真」、「物語」の順に多く確認できた。最も多かった「生活文」は、どの学年でも比較的多く確認できた。また、複数の出版社で取り扱われた教材も確認できた。「生活文」では「一ふみ十年」が4社、「ふろしき」が2社で取り扱われていた。「人物」では、「ワンガリ・マータイ」が3社、「キング牧師」、「杉原千畝」、「西岡京治」が2社で取り扱われていた。

次に学年別の結果を確認した。最も多かった形式は、1年生が「絵・写真」、2～4年生が「生活文」、5年生は「生活文」と「人物」が同数、6年生が「人物」であった。

表2 SDGs教材と形式との関連

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
1	生活文	4	10	10	12	11	7	54
2	人物	1	0	1	5	11	18	36
3	説明文	0	2	7	2	6	9	26
4	絵・写真	5	1	3	1	2	1	13
5	物語	3	1	2	1	3	0	10
6	その他	1	1	0	1	0	3	6
	合計	14	15	23	22	33	38	145

3 SDGs教材と道徳の内容項目との関連（分析3）

SDGs教材と道徳の内容項目との関連を整理した結果が表3であった。

まず、全体の結果を確認した。関連が確認できた内容項目は22項目中18項目であった。そのうち、上位3項目は「自然愛護」、「国際理解、国際親善」、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」であった。これら3つの内容項目で75の教材があり、全体で132教材のうち、半数以上を占めていた。また、道徳の内容の4つの視点でみると、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」と「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」に132教材のうち110教材が配当されており、SDGs教材の8割以上を占めていた。

一方、全く教材が配当されなかった内容項目は、「正直、誠実」、「個性の伸長」、「礼儀」、「相互理解、寛容」であった。これらの4項目には、いずれの出版社もSDGs教材として配当しなかった。また、道徳の内容の4つの視点でみると、「A 主として自分自身に関すること」と「B 主として人との関わりに関すること」は132教材のうち22教材の配当であり、2割弱であった。

次に、学年別の結果を確認した。上位3項目のうち、「国際理解、国際親善」、「自然愛護」は、全学年で上位3項目に入っていた。「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」については、3、4、5年生で上位3項目に入っていた。

学年別に上記3項目以外で上位3項目に入った内容項目は、1年生が「友情、信頼」と「規則の尊重」、2年生が「節度、節制」と「勤労、公共の精神」、「生命の尊さ」、3年生が「生命の尊さ」、4年生が「希望と勇気、努力と強い意志」と「親切、思いやり」、「規則の尊重」、5年生が「感動、畏敬の念」、6年生が「公正、公平、社会正義」であった。「規則の尊重」と「生命の尊さ」が2学年で上位3項目に入っていた。

4 SDGs教材とSDGsの17の目標との関連（分析4）

SDGs教材とSDGsの17の目標との関連を整理した結果が表4であった。合計が、SDGs教材の取り扱い数である132より多い242になったのは、複数の目標と関連する教材がみられた際に、それぞれの目標と関連することとしたためである。

まず、全体の結果を確認した。今回の同定作業の結果、17の目標すべてに少なくとも1教材との関連を確認できた。そのうち、「15 陸の豊かさを守ろう」、「11 住み続けられるまちづくりを」、「10 人や国の不平等をなくそう」が上位3目標であった。最も多かった「15 陸の豊かさを守ろう」は、森林や生物を含めた陸上の自然保護に関する内容とした。次に多かった「11 住み続けられるまちづくりを」

表3 SDGs教材と道徳の内容項目との関連

	内容項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
A(1)	善悪の判断、自律、自由と責任	0	0	0	0	0	1	1
A(2)	正直、誠実	0	0	0	0	0	0	0
A(3)	節度、節制	1	2	0	0	1	1	5
A(4)	個性の伸長	0	0	0	0	0	0	0
A(5)	希望と勇気、努力と強い意志	0	0	0	2	2	1	5
A(6)	真理の探究	/	/	/	/	1	0	1
B(7)	親切、思いやり	0	0	1	2	0	0	3
B(8)	感謝	1	0	0	0	2	1	4
B(9)	礼儀	0	0	0	0	0	0	0
B(10)	友情、信頼	2	0	0	0	1	0	3
B(11)	相互理解、寛容	/	/	0	0	0	0	0
C(12)	規則の尊重	2	0	0	2	0	1	5
C(13)	公正、公平、社会正義	0	0	0	1	1	3	5
C(14)	勤労、公共の精神	0	2	1	1	1	1	6
C(15)	家族愛、家庭生活の充実	0	0	0	0	0	1	1
C(16)	よりよい学校生活、集団生活の充実	1	0	0	0	0	0	1
C(17)	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	1	1	6	2	5	2	17
C(18)	国際理解、国際親善	2	3	3	2	4	7	21
D(19)	生命の尊さ	0	2	3	1	0	2	8
D(20)	自然愛護	4	4	6	6	8	9	37
D(21)	感動、畏敬の念	0	0	1	1	4	1	7
D(22)	よりよく生きる喜び	/	/	/	/	0	2	2
合計		14	14	21	20	30	33	132

は、まちづくりに関する内容の他、伝統文化に関する内容を含めた。3番目に多かった「10 人や国の不平等をなくそう」は、人種等の平等に関する内容の他、異なる文化等の理解に関する内容を含めた。

一方、取り扱い数が少なかった3目標は、「5 ジェンダー平等を実現しよう」、「7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「6 安全な水とトイレを世界中に」であった。最も少なかった「5 ジェンダー平等を実現しよう」は、6年生の教材に含まれていた世界人権宣言の条文の中でのみ取り扱われていた。「7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」は6年生、「6 安全な水とトイレを世界中に」は5、6年生にのみ確認できた。

次に、学年別の結果を確認した。上位3目標のうち「15 陸の豊かさを守ろう」は、全学年で上位3目標に入っていた。「11 住み続けられるまちづくりを」は、2、3、4、5年生、「10 人や国の不平等をなくそう」は、1、3、4、6年生で上位3目標に入っていた。

学年別で上記3目標以外で上位3目標に入った目標は、1、2年生が「12 つくる責任つかう責任」、3年生が「3 すべての人に健康と福祉を」、4年生はなし、5年生は「8 働きがいも経済成長も」、6年生が「17 パートナースhipで目標を達成しよう」であった。

表4 SDGs教材とSDGsの17の目標との関連

	SDGsの17の目標	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	平均
1	貧困をなくそう	0	0	0	0	2	6	8	1.33
2	飢餓をゼロに	0	2	0	2	1	4	9	1.50
3	すべての人に健康と福祉を	0	0	2	1	4	5	12	2.00
4	質の高い教育をみんなに	1	0	0	0	2	3	6	1.00
5	ジェンダー平等を実現しよう	0	0	0	0	0	1	1	0.17
6	安全な水とトイレを世界中に	0	0	0	0	2	3	5	0.83
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	0	0	0	0	0	2	2	0.33
8	働きがいも経済成長も	0	1	1	2	8	8	20	3.33
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	0	0	0	0	4	2	6	1.00
10	人や国の不平等をなくそう	3	2	2	5	4	10	26	4.33
11	住み続けられるまちづくりを	1	6	8	4	8	3	30	5.00
12	つくる責任つかう責任	4	3	0	3	4	5	19	3.17
13	気候変動に具体的な対策を	0	1	1	1	2	4	9	1.50
14	海の豊かさを守ろう	0	1	1	2	3	5	12	2.00
15	陸の豊かさを守ろう	6	5	8	9	11	12	51	8.50
16	平和と公正をすべての人に	0	0	1	1	2	6	10	1.67
17	パートナーシップで目標を達成しよう	1	0	1	1	3	10	16	2.67
	合計	16	21	25	31	60	89	242	

IV 考察と今後の課題

本研究の目的は、小学校道徳科の教科書におけるSDGs教材の特徴を検討し、体系的にSDGs教育を進める上で、道徳科の果たす役割について基礎的資料を得ることであった。

分析1の結果から、7社で1463教材中132教材がSDGs教材として取り扱われていたことが示されていた。この中で、最も多いD社では44教材、最も少ないB社では6教材であり、7倍強の差があり、SDGs教材としての取り扱い数は出版社によって大きく異なることが示されていた。これは、出版社によるSDGs教材の取り扱い方の違いも影響していた。例えば、D社は、「友のしょうぞう画」をSDGs教材として取り扱っていた。ところが、B社、F社もこの教材を掲載しているもののSDGs教材としての取り扱いをしていない。他にも同じ教材であっても、出版社によって取り扱いの異なる教材がいくつか確認できた。

これらのことから、出版社によるSDGs教材の取り扱いに関わって2点のことが示された。1点目は、出版社によってSDGs教材の取り扱い数が大きく異なることである。2点目は、同教材であっても出版社によって取り扱いが異なることである。これらの2点から、学校がSDGsを意図した教育活動を行う際に、出版社の取り扱いを参考にすることに加え、他の教材についても、自校の教育活動に活用することができないか判断していく視点が必要だといえる。

また、SDGs教材の取り扱い数については、学年が上がるにつれて多くなる傾向が確認できた。一方で、このことは1、2年生であっても一定数のSDGs教材が取り扱われていたことを示している。そのため、学校が、低学年の段階からSDGsを意図した教育活動を行うことが可能であるといえる。

分析2の結果からは、「生活文」、「人物」の形式が多く確認できた。「生活文」と「人物」は、どちらも人物を中心としており、自我を関与させやすいと考えられる。また、学年別に検討していくと1年生は「絵・写真」、2～4年生は「生活文」、5年生は「生活文」と「人物」が同数、6年生は「人物」が多くなっており、発達段階に合わせた教材の形式を用いていることが示された。文部科学省(2017b, p.102)は、「先人の伝記には、多様な生き方が織り込まれ、生きる勇気や知恵などを感じることができるとともに、人間としての弱さを吐露する姿などにも接し、生きることの魅力や意味の深さについて考えを深めることが期待できる」とし、伝記を取り上げる必要性を示した。高学年で「人物」が多く取り扱われたことは、世界で活躍している他者の生き方に触れることで、SDGsに関する視野を広げていくことにつながると考えられる。

分析3の結果からは、道徳の内容項目22項目中18項目でSDGs教材が確認できた。全学年で取り扱い数が上位3項目であった内容項目は、「自然愛護」と「国際理解、国際親善」、3つの学年は「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」、2つの学年は「規則の尊重」と「生命の尊さ」であった。また、道徳の内容項目の4つの視点のうち、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」と「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」に関するSDGs教材が多く確認できた。それゆえ、自然や生命、自国の文化や他国との関わりに関する内容項目に教材が多く配当されたといえる。

一方、SDGs教材が配当されなかった内容項目は、「正直、誠実」、「個性の伸長」、「礼儀」、「相互理解、寛容」の4項目であった。このうち、「相互理解、寛容」は、SDGsの17の目標のうち、「10 人や国の不平等をなくそう」や「16 平和と公正をすべての人に」、「17 パートナリーシップで目標を達成しよう」などと深い関連があり、SDGsと関連がない内容項目ではない。また、内容項目「公正、公平、社会正義」も5教材と配当された教材数は少なかったが、「相互理解、寛容」と同様の目標との関連が考えられる。その他にも、配当が5教材であった「節度、節制」は「12 つくる責任つかう責任」、6教材であった「勤労、公共の精神」は「8 働きがいも経済成長も」などと関連が考えられる。そのため、配当が少なかった内容項目がSDGsの目標と関連がないとはいえ、教師が指導する際に内容項目とSDGsの目標との関連を意識する必要がある。

分析4の結果からは、17の目標すべてに少なくとも1教材との関連を確認できた。関連する教材が多く取り扱われた上位3目標は、「15 陸の豊かさも守ろう」、「11 住み続けられるまちづくりを」、「10 人や国の不平等をなくそう」であった。これらは、内容項目との関連が明確であり、「15 陸の豊かさも守ろう」であれば「自然愛護」、「11 住み続けられるまちづくりを」であれば「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」、「10 人や国の不平等をなくそう」であれば「公正、公平、社会正義」などと関連すると考えられる。

一方、取り扱いが少なかった3目標は、「5 ジェンダー平等を実現しよう」、「7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「6 安全な水とトイレを世界中に」であった。これらは、例えば、「5 ジェンダー平等を実現しよう」は、男女の友情という視点から「友情、信頼」、平等という視点からは「公正、公平、社会正義」など間接的に関連する内容項目はあるものの、いずれかの内容項目と直接関連がある目標ではなかった。しかしながら、ジェンダーに関しては、2019年12月に世界経済フォーラムが公表した「Global Gender Gap Report 2020」では、2020年の日本の順位は153か国中121位と、他の先進諸国に比べて低い順位となっており(WORLD ECONOMIC FORUM, 2019)、取り扱う必要性が高い目標といえる。そのため、学校がSDGs教育を行う上で、これらの取り扱いが少ない目標の中にも必要性が高いものがあることを配慮する必要がある。

これらの結果から、SDGs教育を進める上で道徳科の果たす役割として、発達段階に応じてSDGs教育を体系的に進める要となることが示唆された。これは、SDGsの17の目標すべてに少なくとも1教材との関連を確認できたこと、低学年から高学年まで全ての発達段階でSDGs教材が配当されていたためである。特に、高学年の段階では、教材数が多くなること、身近な問題からより広い視野から捉えた問題に発展していることを確認できた。また、SDGsのすべての目標との関連を確認でき、道徳とSDGsとの深い関連も確認できた。これらのことは、道徳の教材を通して、SDGsの全ての目標が学年の発達段階に応じた指導が可能であることを示しているといえる。一方で、出版社によって取り扱い方が異なっていたり、取り扱いが少ない目標であっても、取り扱う必要性の高い目標もあることが示されていた。それゆえ、道徳科はSDGs教育を発達段階に応じて体系的に進める要となる可能性を持つものの、学校が重点とするSDGs教育の目標を定め、その重点に合わせて教材の配当、活用を工夫していく必要がある。

最後に、今後の課題を示す。今後は、本研究の結果を踏まえつつ、SDGs教育を実践することである。実践を通して、SDGs教育において道徳科が果たす役割をより明確にし、持続可能な社会の創り手である子供たちの育成に努めていきたい。

註

- 1) 本研究では、8社のうち「持続可能な社会をつくる力」、「ESD」、「SDGs」等として教材との関連が明記されていた7社の教科書を対象とし、1社を除外した。理由は、教科書の内容解説資料に「持続可能な開発のための教育（ESD）を意識した学習ができるよう配慮しています」（「2020年度観点別 内容と特色」p.3）と示されていたが、「持続可能な社会をつくる力」、「ESD」、「SDGs」等として教材との関連が明記されていなかったためである。
- 2) C社に関しては、適宜教材として時期が示されていない教材を含めた。

引用文献

- 赤堀博行 2018 「道徳授業における教材活用に関わる一考察」、『道徳と教育』, 336, pp.107-117.
- 中央教育審議会 2014 「道徳に係る教育課程の改善等について（答申）」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2014/10/21/1352890_1.pdf
 （最終閲覧日：2022年3月20日）
- 中央教育審議会 2021 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」
https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-1.pdf（最終閲覧日：2022年3月20日）
- 道徳教育の充実に関する懇談会 2013 「今後の道徳教育の改善・充実方策について（報告）～新しい時代を、人としてより良く生きる力を育てるために～」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/096/houkoku/_icsFiles/afieldfile/2013/12/27/1343013_01.pdf（最終閲覧日：2022年3月20日）
- 小嶋祐伺郎 2017 「地球市民意識を育む道徳性育成の実践的研究—多文化共生社会における市民性の育成の視点から—」、『次世代教員養成センター研究紀要』, 3, pp.61-71.
- 国際連合広報センター 2015 「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ（外務省仮訳）」
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000101402.pdf>（最終閲覧日：2022年3月20日）
- 文部科学省 2017a 「小学校学習指導要領（平成29年告示）」
https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf（最終閲覧日：2022年3月20日）
- 文部科学省 2017b 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/fieldfile/2019/03/18/1387017_012.pdf (最終閲覧日：2022年3月20日)

中山博夫 2018 「グローバル時代における道徳教育に関する一考察」, 『目白大学人文学研究』, 14, pp.27-41.

SDGs推進本部 2020 「SDGsアクションプラン2021～コロナ禍からの『よりよい復興』と新たな時代への社会変革～」

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/dai9/actionplan2021.pdf> (最終閲覧日：2022年3月20日)

田沼茂紀 2014 「実効性と系統的発展性が伴う教科教育学の視点からの道徳授業改革提案」, 『道徳教育方法研究』, 20, pp.74-76.

柳沼良太 2015 「『特別の教科 道徳』への期待と課題」, 『道徳と教育』, 333, pp.165-171.

WORLD ECONOMIC FORUM 2019 「Global Gender Gap Report 2020」

http://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2020.pdf (最終閲覧日：2022年3月20日)

参考文献

学研教育みらい 2020 『新・みんなの道徳1～6』

学校図書 2020 『かがやけみらい 小学校道徳1～6年』

廣済堂あかつき 2020 『みんなで考え、話し合う 小学生の道徳1～6』

教育出版 2020 『小学校道徳1～6 はばたこう明日へ』

光村図書 2020 『道徳1～6 きみがいちばんひかるとき』

日本文教出版 2020 『小学道徳 生きる力1～6』

東京書籍 2020 『新訂 新しい道徳1～6』